盲腸（虫垂炎）
Q:盲腸（虫垂）とは？
A:右下腹部に小腸と大腸が繋がる所がありますが、この小腸と大腸のつなぎ目の部分が医学的には「盲腸」と呼ばれる部位です。そして、この盲腸の端から飛び出している、長さ6～8cmの細長い管状の臓器が虫垂です。（一般の方はこれを「盲腸」と言ったりしますので混同しないように今後は「虫垂」といいます。）この部分が炎症を起こすことを「虫垂炎」といいます。

Q：虫垂炎は良くある病気？
A　救急で治療される病気としては、よく見かける病気ですね。アメリカでは一生のうちで虫垂炎の治療を受ける人が７％いると言いますから大体15人に1人が虫垂炎の治療を受けているということになりますでしょうか、年間で20万件の虫垂炎手術が行われているそうです。年齢でいうと、10代から20代にかけて多く発生すると言われていますが、最近では高齢者の発症も増えてきていると言われています。

Q：虫垂炎が起こるとどうなるのですか？
A：虫垂炎になると、発熱や腹痛が出現します。腹痛は虫垂が右下腹部にありますから始めから右の下腹部が痛むと考えがちですが、自覚症状は初めは食欲低下や心窩部（みぞおち）の痛みから自覚することが多く、炎症が進行すると次第に右下腹部の痛みが強くなってきますこの症状が半日から2日かけて出現します。症状に吐き気やおう吐もあるため、始め病院を受診したとき、胃腸炎と診断されることもありますので注意が必要です。

Q：盲腸（虫垂炎）が進行するとどうなるのですが？
A：虫垂炎が進行すると、虫垂が腫れてきて痛みが出てきますが、これを更に放置すると、
最後には虫垂の壁の血流が悪くなって虫垂が腐る（これを壊死といいます）酷い時には破裂してしまいます。破裂する頃には虫垂の管の内部には膿がたまっていますからこれが破裂すると膿がお腹の中に漏れ出してお腹の中で更に炎症が広がります。これを腹膜炎といいますが、腹膜炎になると全身にバイ菌が回って敗血症という危険な状態になることもあります。

Q：虫垂炎の治療は？
A：虫垂炎と診断されたら、炎症が軽い虫垂炎では抗生剤を投与して炎症を抑えることもありますが、基本的には手術で虫垂を切除することが多いです。手術も従来のお腹を開けて
虫垂を切りとる従来の開腹手術のほかに、内視鏡（腹腔鏡）を使って小さい傷で切除する内視鏡手術も増えてきています。手術手技については担当する外科の先生と相談して決めることが多いですね。

Q：虫垂炎は怖い病気なのでしょうか？
A　確かに、虫垂が壊死（腐ること）したり、虫垂が破裂して中身が漏れ出すような状態になると死亡率は５％まで上昇します。また、子供さんや老人では診断時には虫垂炎が進行して壁が破れていたりすることが多く、重症化することがあります。それと、妊婦さんも虫垂炎にかかることがあり、妊婦に発生した虫垂炎が炎症が強くて破れたりすると、流産を起こす危険性が高まりますので注意が必要ですね。ですが虫垂炎自体はちゃんと診断して治療を行えば死亡率は0.1%以下、1000人に1人以下と予後の良い病気です。大事なのは

お腹の調子が普段とくらべておかしい場合は、あまり我慢せずに救急病院等で検査を受けてください。